

富山高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	航海英語Ⅰ	
科目基礎情報							
科目番号	0038			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	商船学科			対象学年	2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「はじめての船上英会話」(海文堂)、演習用プリント						
担当教員	中谷 俊彦,西井 典子						
到達目標							
1. 航海系の船舶職員が利用する専門的な英単語を理解し活用できる 2. 航海系の船舶職員が利用する専門的な英語フレーズを理解し活用できる 3. 航海系の船舶職員が利用する専門的な英会話を理解し活用できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	専門的な英単語を十分に活用できる			専門的な英単語を活用できる		専門的な英単語を活用できない	
評価項目2	英語フレーズを十分に活用できる			英語フレーズを活用できる		英語フレーズを活用できない	
評価項目3	英会話を十分に活用できる			英会話を活用できる		英会話を活用できない	
学科の到達目標項目との関係							
MCCコア科目							
教育方法等							
概要	航海系の船舶職員が利用する専門的な英単語・英語フレーズ・英会話を理解し応用する技能を学ぶ						
授業の進め方・方法	2名の教員が入替りながら授業を行う。 授業では、毎週の内容に沿った英会話の演習(発音、ロールプレイ)、英語基礎・構文(筆記)を行う。						
注意点	3級海技士(航海)第1種船舶職員養成施設「上級航海英語」講習の内容に相当。 各教員が定期試験と小テスト・提出物などにより50点分ずつ評価し、これを足しあわせて本科目の成績とする。英語基礎・構文50点の内訳は定期試験約75%、課題等約25%。 評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者に対しては、その評価を60点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		授業の目的を理解し説明できる		
		2週	部署配置		部署配置の場面での英会話を理解し応用できる		
		3週	出港		出港の場面での英会話を理解し応用できる		
		4週	入港		入港の場面での英会話を理解し応用できる		
		5週	抜錨		抜錨の場面での英会話を理解し応用できる		
		6週	投錨		投錨の場面での英会話を理解し応用できる		
		7週	機器等運転		機器等運転の場面での英会話を理解し応用できる		
		8週	中間試験		中間試験		
	4thQ	9週	中間試験の解答 操舵号令		試験返却・正解答解説 英語での操舵号令を理解し応用できる		
		10週	航海状況の報告		英語での航海状況の報告を理解し応用できる		
		11週	周囲状況の報告		英語での周囲状況の報告を理解し応用できる		
		12週	気象の報告		英語での気象の報告を理解し応用できる		
		13週	変針		変針の場面での英会話を理解し応用できる		
		14週	当番の交代		当番の交代の場面での英会話を理解し応用できる		
		15週	期末試験		期末試験		
		16週	答案返却、解説、評価確認、授業アンケート		答案返却、解説、評価確認、授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3		後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3		後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14

				中学で既習の語量の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	後7,後10,後11,後12
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後13
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2	後10,後11,後12

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	40
専門的能力	40	0	0	0	20	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0